

NPO 法人こどもとむしの会について

◆ 目的と事業（定款抜粋）

目的

この法人は、兵庫県佐用郡佐用町船越にある昆虫館を活動拠点のひとつとし、広く市民に対して子どもと虫に関連する普及啓発事業を行うとともに、地域の自然環境とまちづくりに関連する調査研究を行い、人々の環境学習の促進、生物多様性の保全、地域の振興に寄与することを目的とする。

◆ 事業

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係わる次の事業を行う。

- (1) 子どもと虫に関連する普及啓発事業
- (2) 地域の自然環境とまちづくりに関連する調査研究事業
- (3) 昆虫館等の運営支援事業

◆ 会員

正会員 年会費1万円

賛助会員 年会費3万円（法人）／1万円（個人）／5,000円（家族）

学生会員 無料

◆ 事業規模

収入 753万円（2011年度決算）

会費収入 76万円

寄付金収入 21万円

事業収入 656万円

編集・発行 NPO法人こどもとむしの会

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1番1号 神戸大学農学部昆虫科学研究室気付

TEL 080-3853-6483 FAX 06-7878-3758 E-mail: office@konchukan.net

URL: <http://www.konchukan.net>

発行日 2012年9月30日

すべての子どもたちに、いきものたいけんを!

みんなで作ろう 小さなこんちゅうかん

日本の子どもたちは、昔も今も、昆虫や小動物が大好きです。
私たちといっしょに、子どもたちの体験を育みませんか。



すべての子どもたちに、いきものたいけんを



夏になれば、子どもたちがアミとカゴを持って野山を駆け回る姿が見られます。日本の子どもたちは、昔も今も、昆虫や小動物が大好きです。2008年に設立されたNPO法人こどもとむしの会は、その名が示すように、そんな子どもたちに昆虫を通じた体験を提供し、好奇心、探究心を育む活動をしています。

このパンフレットは、もっと多くの方々に私たちの活動内容やしくみを知っていただき、参考事例として活用いただくことを目的として、作成しました。

小さな昆虫館を

NPO法人こどもとむしの会の設立のきっかけは、長く親しまれてきた兵庫県昆虫館の廃止でした。私たちが指定管理者となって開館した佐用町昆虫館は、「こどもとむしの秘密基地」を合い言葉に、子どもたちのたいけんを重視した館によみがえりました。自由に虫とりができ、いろんな昆虫に触れられる佐用町昆虫館は、春から秋まで、子どもたちの笑顔と歓声であふれています。

佐用町昆虫館はとても小さな施設です。10分もあればひと回りできます。そのため、施設管理の作業は少なく、子どもと虫を愛する多くのボランティアスタッフが、自らも楽しみながら、館の運営に当たっています。

2009年8月の台風9号水害で昆虫館は大きな被害を受けました。みんなで運営するというスタイルはこのときにも大きな力を発揮し、のべ429人が作業にあたり、翌年からの再開を果たしました。

すべての子どもたちに

私たちは、兵庫県立人と自然の博物館と連携し、佐用町昆虫館が水害で休館している間、生きた昆虫や標本を持って、佐用町内の幼稚園・保育園を訪問しました。これが「いどうこんちゅうかん」の始まりです。

水害に関わらずさまざまな事情で来館することが難しい子どもたち、昆虫館の存在を知らない子どもたちもたくさんいます。そんな子どもたちにも、佐用町昆虫館の楽しさ、生きものたいけんの機会を提供できることがわかりました。

そこで、2010年から、本格的に「いどうこんちゅうかん」を始めました。幼稚園、保育園、児童館等々へ、生きた昆虫や実物標本とともに、子どもと虫を愛するスタッフが訪問します。初めて昆虫にさわる子ども、昆虫大好きな子ども、大興奮です。「いどうこんちゅうかん」の依頼は、年々増えています。一日だけに終わらず、期間限定昆虫館として、一定期間継続して開催することもあります。

ネットワークで

私たちの活動拠点である兵庫県には、県立や市立の博物館や昆虫館がいくつもあります。図のように、私たちの得意とする領域は、それらの館の裾野の部分にあります。

子どもたちの「いどうこんちゅうかん」での体験は、佐用町昆虫館や、市立、県立の昆虫館・博物館へと回遊するきっかけとなることでしょう。そこでは、また別の体験が待っています。より深く学ぶためのプログラムも充実しています。

佐用町昆虫館は兵庫県立人と自然の博物館と連携に関する協定を結んでいるほか、こどもとむしの会の会員には他の昆虫館の職員もいます。また、こどもとむしの会が事務所を置く神戸大学には昆虫学の研究室があり、会員にはその卒業生も多く含まれます。

私たちの活動は、大型博物館や大学といった、とかく敷居が高くなりがちな施設と、保育園、幼稚園、児童館といった地域の施設とを連結する活動ともいえるでしょう。

地域に根ざした活動の一方で、2011

年からは、沖縄県与那国町のアヤミハビル館、北海道遠軽町の丸瀬布昆虫生態館と連携した学習プログラムや展示の開発にも取り組んでいます。佐用町昆虫館ほど小規模ではないにせよ、全国各地には小さくてもキラリと光る施設がたくさんあります。ひとつひとつは小さくても、協力し合うことで、大きな力となるかもしれません。2011年からは、東日本大震災で被災した子どもたちへの支援に取り組んでいます。ここでも、さまざまな団体との連携、交流が深まりました。

私たちの力は微々たるものですが、いろんな方々とのネットワークで、面的、立体的に子どもたちの「いきものたいけん」の機会を提供し、日本中のすべての子どもたちがごく自然に生きものに触れられる環境づくりを進めたいと思います。生きものに触れ、生命を感じた子どもたちが、多様な生きものを育む豊かな自然環境の大切さ、自然と共生してきたわが国の文化に気づき、地域を愛する心を育てていくことを願っています。



与那国町アヤミハビル館



丸瀬布町昆虫生態館

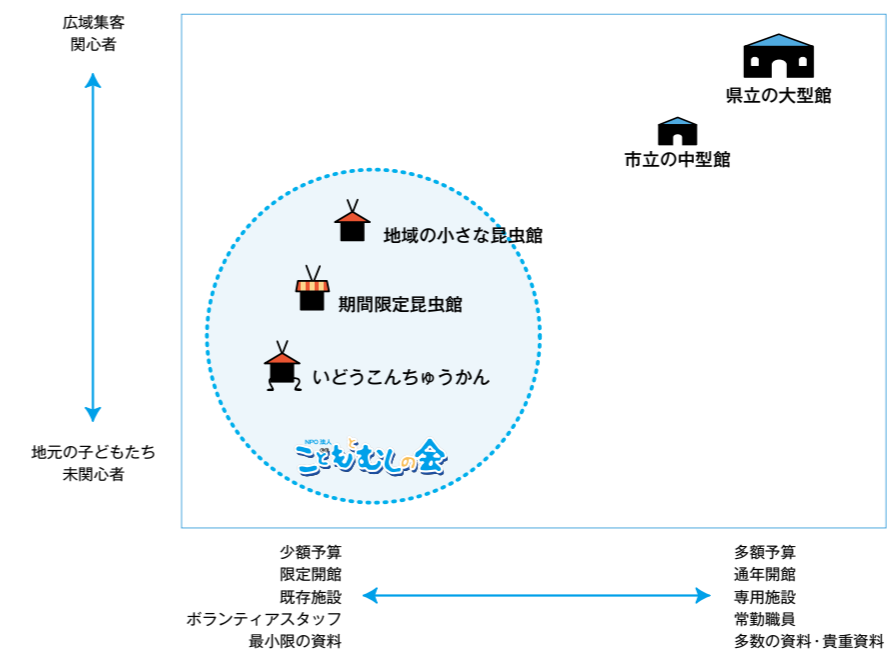


豊かな緑に囲まれた佐用町昆虫館



水害からの復旧作業 2009年9月 佐用町昆虫館にて

NPO法人こどもとむしの会の守備範囲～博物館等の規模と利用者特性の関係～



収蔵庫や専門的飼育施設を要する中大型館では、施設の維持管理や常勤専従職員の雇用に多額の予算を要します。そのような館が各地にあればいいのですが、難しいのが現実です。NPO法人こどもとむしの活動は、地域に密着した身軽な活動を拡げることで、結果的に、中大型館のサービスの届かない部分をフォローしています。

小さな昆虫館には、 いいことがいっぱい！

【～佐用町昆虫館～】

「こどもとむしの秘密基地」が合い言葉の佐用町昆虫館には、春から秋まで、子どもたちの笑顔と歓声であふれています。その秘密をご紹介します。

1. 小さいことは悪くない

敷地面積 942㎡、木造平屋建て述べ床面積 165㎡の小さな館です。展示スペースが小さい、大きな団体に利用いただけない、という不便さはありますが、コンパクトで目が届く、迷子にならない、といったメリットもあります。佐用町昆虫館には、年間 5,000 人ほどの来館者がいます。幼児が 2 割弱、小学生が 2 割強、大人が 6 割、その多くは家族連れです。人口の少ない佐用町内よりも、車で 1、2 時間を要する姫路市や神戸市からの来館者が多いです。なお、観覧料は無料です。

2. 豊かな自然に囲まれた立地

昆虫館は、兵庫県佐用町船越の地、中国山地の東の端、氷ノ山・後山・那岐山国定公園の一部である船越山の麓に位置しています。館のそばの寺谷川は南東に開く深い谷を刻み、一抱えもあるスギの大木が林立する幽谷の様相を示しています。近年のシカによる食害で下層植生は貧弱となっていますが、年間を通して多種多様な昆虫が見られます。昆虫館の庭には、自然に、さまざまな昆虫が訪れます。

3. 季節開館

佐用町昆虫館は、4 月から 10 月までの土日祝日のみの開館で、年間開館日数は約 70 日です。開館時間は 10 時から 16 時です。もともと冬期の来館者は少なかったため、昆虫と同様、冬期は冬眠することとしました。また、子どもたちを主たる対象としたことから、平日は休館としました。ただし、学校団体などから要望がある場合には、臨時開館します。

4. 多彩なスタッフによる運営

館の運営、展示の製作、体験型プログラム、施設の維持管理、これらすべては、こどもとむしの会の正会員と関係者によってなされています。年間約 70 日の開館日は、ボランティアの一日館長が運営します。スタッフは正会員の申し出によって決定し、ホームページ上で事前に告知しています。スタッフの確保はたいへんですが、コーディネーターたる役員が、きめ細かく気配りし、年間を通して調整しています。多彩なスタッフの個性に触れていただけることが、昆虫館の大きな魅力です。館内の展示「むしの宝箱」のコーナーには、会員が持ち寄った昆虫標本が展示されています。標本箱には製作者の氏名と顔写真を入れ、文字通り顔の見える展示となっています。



▲佐用町昆虫館の位置

5. 対面式カウンター

館内のメインは、キッズコーナー前の対面式カウンターです。まるでキッチンのように、いろんな昆虫がならんでいて、手に取って観察できます。来館者は、必ず、ここで当日のスタッフと対面し、会話することになります。昆虫を介在した人と人とのふれあいが、スタッフと来館者との信頼関係をつくり、子どもたちの笑顔の基盤です。

6. 自由な虫とり

佐用町昆虫館では、虫とりアミ（といってもプロが用いる仕様です）とカゴは自由に使えます。つかまえることや持ち帰ることも、とくに制限していません。「たいせつに育ててね。飼えなくなったらここに返しに来たらいいよ」ということです。度を過ぎた行為やゴミのポイ捨てはほとんどありません。小さな館でスタッフと来館者が会話することが、一体感と温かい雰囲気を生み出しているのです。

佐用町昆虫館についての詳しくは、以下をご参照ください。
ホームページ
<http://www.konchukan.net/sayo>
三木 進 (2012). こどもとむしの秘密基地 佐用町昆虫館小史. きべりはむし, 34(2): 29-32. (PDF 閲覧できます)

佐用町昆虫館の施設配置図

網室はありますが、温室はありません。
池が二つあり、館を取り囲む排水路も生物生息空間として利用しています。



館を取り巻く水路には、オタマジャクシやイモリ、ヤゴがいます



佐用町昆虫館では虫とりも自由です



対面式カウンターで虫を介した会話が弾みます



初めてのたいけんをサポートします



出かけていくと、 いいことがいっぱい!

【～いどうこんちゅうか～】

いどうこんちゅうかんの特徴

佐用町昆虫館のすばらしい自然環境だけは持っていきませんが、そこで展開されている楽しいプログラムを、各地へお届けします。いどうこんちゅうかんの依頼は、年々増えています。どうぞ、早めにご予約下さい。

1. どんな会場でも

小学校の教室の半分くらいのスペースがあれば、じゅうぶん開催できます。周囲の環境は問いません。屋外でも開催できますが、虫たちのコンディション維持のため、日陰が好都合です。夏期は、エアコンのある室内が最適です。

2. 季節を問わず

昆虫は「夏」と思っていないですか？もちろん、夏は野外で調達できる虫も多く、会場によっては、周囲での虫とりもメニューに加えられるなど、展開の自由度は高まります。しかし、成虫で冬を越す虫もいますので（たとえばクワガタムシ）、一年中、開催できます。



たいけんコーナーのようす

野外に虫の少ない季節は、標本をじっくり観察するプログラムにも最適です。

3. すてきなスタッフと

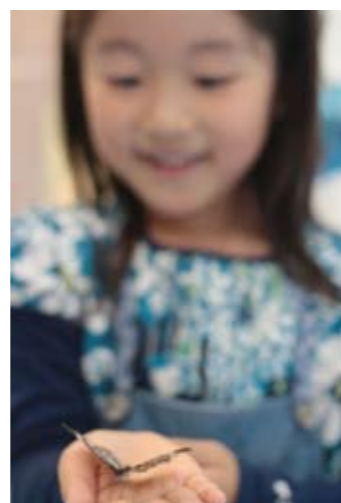
こどもとむしの会正会員の大人はもちろん、高校生から大学院生の学生会員が、子どもたちをアシストします。彼ら彼女らは、ただの学生ではありません。その多くは、子どもの頃から昆虫に親しみ、博物館や佐用町昆虫館で何年間も研修を受けてきた、よりすぐりのスタッフです。彼ら彼女らの生き生きとした姿を子どもたちに見てもらうことも、私たちが重視しているポイントのひとつです。

4. ご希望に応じて

まわりに豊かな自然があるので、実際に子どもたちに虫とりをさせたい、という場合、野外の虫とりを中心としたプログラムをおすすめします。しかし、虫とりが苦手な子がいることもありますし、野外でのプログラムの成否は天候に大きく左右されます。そのため、室内でも対応できる準備だけはしてお



幼稚園での「いどうこんちゅうかん」



2012年6月福島市子どもの夢を育む施設こむむ館にて

きます。1、2週間、標本や写真パネルの展示を行い、会期中の数日間だけ体験メニューを織り込んだスペシャルプログラムを行う、というようなご希望にも対応できます。多量の標本展示を希望される場合は、既存の博物館などをご紹介いたします。

5. ご用意いただくもの

気持ち…私たちといっしょに、楽しく運営して下さること！
物品類…お絵かきをするための、低いテーブル（数台）をご用意ください。（できれば）
スタッフ…受け入れ施設さんで、参加者の誘導、会場運営にご協力いただくスタッフを、確保いただけると助かります。虫が苦手でも大丈夫！
予算…人とモノが動きますので、どうしても、お金がかかります。受け入れ施設（または参加者）の方で、経費負担をお願いします。会場と内容によって変動しますが、目安としては、3～5万円です。

いどうこんちゅうかんのページ

<http://www.konchukan.net/caravan.html>



いどうこんちゅうかんのメニュー

ご希望に応じ、これらのメニューを組み合わせで展開します。プロジェクタを用いた専門的な昆虫の講話、標本づくり教室、屋外での虫とりなども可能です。ご相談ください。

たいけんコーナー

テーブルの上に小ケースをならべ、昆虫や小動物にさわって遊びます。あまり飛び回らない虫をさわります。年中実施できます。

【通年】クワガタムシ、タガメ、ゲンゴロウ、オオゴキブリ、イモリ【春】ハンミョウ、ハナムグリ【夏】カブトムシ、タマムシ、カミキリムシ【秋】バッタ、カマキリなど。



おつきな虫かご

蚊帳の中に入って、虫たちと遊びます。活発に飛び回る虫が中心になりますので、さすがに冬期は実施できません。

【春】チョウ、トンボ【夏】チョウ、セミ、トンボ【秋】バッタ・カマキリ・トンボなど。



お絵かきコーナー

実物の昆虫標本を見ながら、プロ用のサインペン「コピック」や色鉛筆で、ぬりえやお絵描きをします。標本は20種程度あります。



むしむし小話

むしの会のスタッフが、楽しいクイズで、オープニングを盛り上げます。



昆虫ズームイン

実体顕微鏡やデジタルマイクロスコプで、昆虫を拡大して観察します。チョウやタマムシの翅（はね）、虫の顔、カ、アリなどの標本



アトモスフィア

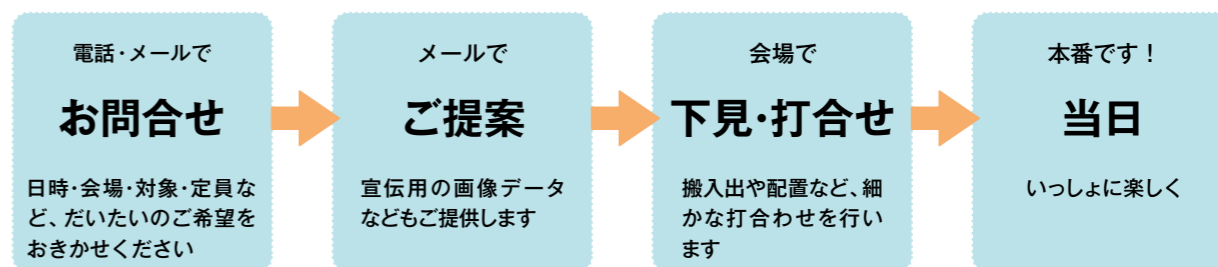
大型タベストリや写真パネルで、会場の雰囲気を盛り上げます。記念撮影の背景にも最適です。



プレゼントに

記念品として、A6サイズのかわいいKON-PASSノート（こんちゅうかんパスポート）や、兵庫の昆虫カンバッジ（ご希望に応じてガチャポンマシンも）をご用意しています。

開催までのながれ



問い合わせ先: TEL 080-3853-6483 FAX 06-7878-3758 E-mail: office@konchukan.net

※夏期は忙しく、ご希望に沿えないことがあります。できるだけ早くご相談ください。